

市民まちづくり活動促進基本計画のあり方について（答申案概要）

1 現状と課題

(1) 参加する側から見た現状と課題

<各種アンケート調査から>

① 高まりを見せるまちづくり活動への参加意欲

- 6割の市民がまちづくり活動への参加経験なし
- まちづくり活動の活性化には、団体や活動内容に関する情報提供が大切
- 参加促進には、参加意欲やニーズに応じて施策・事業展開が必要

② 期待が大きいシニアの参加を効果的に

- まちづくりへの参加意欲は高いが、市民全般と同様、参加経験少ない
- 無理ない参加、回数、身近な場所を希望、情報は基礎知識を望む
- シニア世代の地域デビューに的確な支援が必要

③ 気軽な参加につなげたいコミュニティ活動(町内会活動)

- 活動に参加したいと参加したくないが半々
- 参加条件は時間の余裕のほか手軽さを重視。まちセン活用が高い認識
- 加入率低下に参加しやすい組織、関心を呼ぶ新たな活動などが必要

<意見>

① 懸念される「市民の孤立」、家族・地域の弱体化

- ◎ 市民同士のつながりの希薄さの解消と安心して暮らせるまちへの期待
- ◎ 住んでいて良かったといえる精神基盤が必要

② 地域でのコーディネート機能が重要

- ◎ 気軽に参加できる機会など、多様な参加機会の必要性
- ◎ 人と人を結ぶコーディネートが鍵、まちづくりセンターへの期待
- ◎ 若い世代や団塊世代のニーズに合った新しい町内会活動も期待

(2) 活動団体側から見た現状と課題

<各種アンケート調査から>

① 財源確保、そして、連携・協働のきっかけに高いニーズ

- 会員10人未満の小規模団体や活動年数の短い団体が多い
- 団体の活動内容やイベントに関する情報発信へのニーズが高い
- 人材育成は、広報、企業・行政との協働などへのニーズが高い
- 団体が求める人材は、継続的に活動を担う会員や参加するボランティア
- 活動の場は、身近な打合せ等スペース、事務所設置ニーズが高い
- 助成金情報が高いニーズ、基金設置に多くが賛同
- 団体間をつなげるコーディネートや交流イベントが重要

② 担い手不足と加入率低下に危機感の町内会

- 役員の高齢化の進行、加入世帯の減少、新たな担い手の確保が課題

③ 社会貢献活動に対する認識向上が求められる企業の現状

- 社会貢献活動の未実施が過半数、理由は経済的事情と多忙

<意見>

① 人材から、財政、情報、活動の場まで総合的な支援が不可欠

(人材の育成支援)

- ◎ 町内会、NPOとも、人材不足が共通課題
- ◎ 市民を活動につなげるコーディネートができる高度な人材が必要

(財政支援)

- ◎ 小規模団体の運営の安定化に向けた資金支援が必要

(情報の支援)

- ◎ まちづくりに関する情報が一覧できる仕組みが必要
- ◎ 団体による主体的な広報を支援する仕組みが必要

(活動の場の支援)

- ◎ 公共施設ネットワーク化など、施設の有効活用の推進が必要
- ◎ 民間施設も含めて、会場などを探しやすい環境の整備が必要

② 活動の連携は、構えずに目標の共有から着手

- ◎ 自然な連携・協働は、まず、知り合い、目的・目標を共有することから
- ◎ 団体同士の連携には、出会いのきっかけが大切
- ◎ 市民と企業の接点を見つけ、双方をつなぐコーディネートが必要

2 課題解決に向けた基本施策について

(1) 市民への効果的な情報提供

- テーマ別の活動に関する情報提供など
- 気軽にできるボランティアを含めた多様なボランティア情報の提供
- 活動段階に応じた活動の場に関する情報の提供
- 市の各種イベントでのまちづくり活動PRの実施

(2) 市民ニーズに合わせた多様な活動の場づくり

- 気軽に参加できるボランティア活動の仕掛けづくり
- 団塊の世代向けの新たな活動の場づくり

(3) 身近なことから高度なことまで、段階的に関心を呼ぶ取組の実施

- まちづくりへの参加者を増やすきっかけづくり事業
- 気軽に楽しみながら参加できる人材育成プログラムの開発
- 子どもが主体的に参加できる体験型まちづくり学習事業

(4) 市民と市民、市民と団体が出会い、交流できる取組

- 市民、団体が一堂に会し、交流などを行うイベントの開催
- 市民を団体や活動につなげるマッチングの仕組みづくり

(5) 地域の多様な交流サロンづくりの促進

- 交流サロン「地域の茶の間」設置の促進
- 札幌の未来を展望したり、新たなビジネス展開につながる場に

(6) 総合的な情報支援、ITを活用した情報交換・交流を図る仕組みづくり

- まちづくりの総合情報発信サイト
- 団体が自ら情報発信や情報交換していくことへの支援

(7) 公共・民間施設の有効活用

- 施設情報の一元的な提供、打合せ等できる身近な場への支援

(8) さぼーとほっと基金のメニューの多様化

- まちづくり活動の拡大などを支援する助成メニューの創設

(9) 活動主体の種類・活動段階に応じた人材育成支援

- まちづくり活動促進のための共通講座の開設、関連講座の体系化
- キャリアや高度な知識を活かせるまちづくり人材育成プログラムの開発
- まちづくり講座の参加者を地域の活動につなぐ仕組みづくり
- 札幌発のコーディネーター育成事業

(10) 企業の社会貢献活動の促進施策

- まちづくりへの企業の参加促進
- 企業活動の中で取り組める社会貢献活動の提案

(11) 団体間及び団体と市民、企業、行政が交流する場の設定

- 交流し、連携し、そして協働というつながりを深める活動の促進
- 多様な団体、市民、企業などが交流できるイベントの開催

(12) 市民が団体の活動に体験的に触れられる機会の設定

- 各種まちづくり関係講座などへの体験メニューの導入

(13) 協働関係の普及

- 団体間、団体と行政の協働事例普及、NPOと行政の協働事業の実施
- 市民が主体的に運営していく組織創出の促進

(14) 企業と団体の交流・連携の促進

- 企業と団体の交流・連携の場づくり

(15) 連携のためのコーディネーターの創出

- 地域におけるまちづくりコーディネート機能の拡充

(16) 協働推進のための窓口の設置

- 課題解決のための地域における多様な団体のネットワーク形成支援

(17) 庁内に横型の推進体制を

- 市民と職員がまちづくりについて一緒に学び合う場の設定

(18) 計画の進行管理や検証にも市民参加を

- 市民目線での計画の検証

(19) その他留意点

- 悪質な団体による詐欺的な動きへの注意

3 計画書作成にあたって

- (1) 基本計画は、札幌市と、市民、団体、事業者が共に進めるもの
- (2) 計画策定に当たっては、活動に参加していない市民の目線を大切に
- (3) 計画書は、市民向けに分かりやすく解説する工夫が必要
- (4) 分かりやすいダイジェスト版も作成することが重要

4 重点事業について

(1) まちづくりで最も重要な視点は人づくり、これを札幌独自のスタイルに

① まちづくりへと、そっと背を押してくれるコーディネーターに

- ◎ まちづくりに参加する方法を知るきっかけづくりや、自分の役割を果たしたいという意欲などを大切にしたい取組が必要
- ◎ 町内会においても、従来からまちづくりを担っている方と若い人たちをつなぎ、結び付けていく、コーディネーターの存在が必要
- ◎ まちづくりに入っていけるよう、背中を押す役割のコーディネーターが必要

② 高度な集中講座、体験型、そして実践型のまちづくりメニューも

- ◎ 地域課題解決事業で、企画、実践、助成をセットで実施するのが効果的
- ◎ まちづくりに関して体系的に学べるコーディネーター養成講座が不可欠
- ◎ コーディネーター養成講座終了後に地域で活躍できる場、資格制度の検討

(2) 札幌の財産、まちづくりセンターを拠点にしたまちづくり活動への支援

① まちづくりのきっかけづくりに期待

- ◎ まちセンによる情報提供やきっかけづくりによる参加促進を期待

② 気軽な参加を演出、まず、地域を知ることから始めること

- ◎ まず地域を知る機会を多くつくるのが効果的
- ◎ 親子、家族で一緒に参加できるなど、多彩な参加の入り口作りが必要
- ◎ 地域歩きのワークショップを通じた異世代交流や新たな活動の創出へ

③ まちづくりセンターを活動の結節点に、地域で盛り上げよう

- ◎ まちセンで地域情報や地域との関わり方を知ることができる仕組みの構築
- ◎ まちセン所長と共に、地域にコーディネーターの担い手が育つことを期待
- ◎ まちセン中心に地域のまちづくりを学ぶ場を持つことが大切